

・ 2005年 ISOE/EPRI ALARA シンポジウム 出張報告

1. 月 日 2005年1月9日～1月12日
2. 場 所 米国フロリダ州 フォトダ デル
3. 出席者 米国を中心とした放射線防護マネージャー、定検関係者、ALARA エンジニア、規制当局とベンダーなど 180人
北米以外に10カ国が参加した。(スウェーデン、スペイン、フィンランド、独、フランス、ベルギー、日本、韓国、ルーマニア、ロシア、スロベニア)
日本からの出席者
JNES 水町安全情報部長、東京電力 菅井放射線管理グループマネージャー
JANUS 菅谷女史、JNES 安全情報部 小森上席研究員

4. 議事概要

プレナリセッション1 放射線安全の将来,2004年優秀賞表彰

スペシャルセッション2 ・リヨン ISOE ワークショップから3件の報告

・水町部長プレゼンテーション

セッション3 ALARA プログラムケーススタディ

セッション4 ALARA 革新セッション

セッション5 グローバル ALARA

セッション6 グローバル ALARA **日本からの報告(小森、東電・菅井 GM)**

セッション7 ソースタームリダクション

セッション8 放射線防護(RP)

セッション9 RP に対する技術開発

セッション10 技術開発：労働安全

水町部長プレゼンテーション

10日に実施されたスペシャルセッションでは、水町部長が「日本における被ばく低減への取り組みと美浜復水配管破断事故」と題してプレゼンテーションを実施。解析結果を基にした破断状況を示した動画はわかりやすく好評であった。

日本からの報告(小森、東電・菅井 GM)

11日のセッション6のグローバル ALARA では、「日本の2003年度従事者被ばく状況について」を報告した。こちらは、冒頭 小森が日本の状況結果を簡単に紹介。引き続き東電の菅井 GM が詳細分析並びにこれまでの被ばく低減への取り組み状況について報告した。

(1)ALARA 最優秀賞表彰：2004 年は VC サマー発電所

これまでの当該発電所 ALARA への取り組みとその実績に対して冒頭に表彰
それを受けて、関係者からプレゼンテーションを実施。今回のシンポジウムの表紙
にもなっている。

(2)今回 ALARA シンポジウム発表の中から優秀発表（北米のものに限る）の選出：

‘Pressurizer Heater Nozzle Replacement’ San Onofre

‘Browns Ferry Unit1 Restart Term Reduction Initiatives’

‘Ultrasonic Fuel Cleaning Pilot at Quad Cities’

この3件については、来年欧州(独)で開催されるワークショップへ招待される。

内容はこの ISOE ホームページに掲載してある ISOE NWES No.5 を参照して下さい。

5 . 所感

シンポジウム全体を通して感じたことは、ISOE 北米技術センターの活動の活発さである。ワークショップ参加の意義と成果は、参加することによる士気高揚と情報交換に集約される。こうした場を提供することが技術センターとしての大きな役割である。今後、アジア技術センターの活動の活発化に活かさねばならないと痛感した。

6 . その他

(1) 更なる情報交換

シンポジウムの合間をぬって、ISOE 北米センターのミーラー氏 (ISOE 北米センターコーディネータ) のアテンドで、米国 BWR 発電所 RP マネージャーと話す場を頂いた。

(1) 対応プラント Quad Cities, Limerick, Fermi .

(2) 相手先 米国 BWR 発電所の RP マネージャー

(3) 当方 東電菅井 GM、JNES 小森、JANUS 菅谷氏同席

こうした機会を通じて、本年 2 月事業者が主体となった現地発電所 (フェルミ発電所、ピーチボトム発電所) の訪問に結びついた。

. NRC Region 放射線防護マネージャー / NRC 会議 (初日の 1 月 13 日出席)

ALARA シンポジウムに引き続いて、「NRC Region 放射線防護マネージャー / NRC 会議」が同じ場所で開催されたので、あわせて出席した。

(1)開催日：1 月 13・14 日の 2 日間 (開催頻度 1 回 / 年) (初日の 1 月 13 日出席)

(2)場所：フロリダ フォートローダーデール (ALARA シンポジウムと同じ場所)

(3)内容

出席者数は30名。NRCからはRegionのマークミッチェル氏、ほかにRegion及び本部から各1名が参加。事業者側からはRegionに各発電所RPマネージャーが参加。日程は二日間。出席者数は30名。NRCからはRegionのマークミッチェル氏、ほかにRegion及び本部から各1名が参加。事業者側からはRegionに各発電所RPマネージャーが参加。日程は二日間。

今回は、これにISOEメンバーの日本、ロシア、ルーマニア、スペイン、韓国、フランスEDF(二日目)がオブザーバー参加して国際色豊かな会議となった。

会議の進め方は、この会議は非公式で規制側と事業者側の、また事業者同士の自由な情報交換の場として実施されており、資料はなくすべて口頭報告。

まず、NRC側からPlant Inspection(保安検査)でのFindingと呼ばれる問題項目の紹介と及びに良好事例も報告される。また、各発電所からは状況報告並びに教訓事項(Lesson Learn)や取り組んでいる課題を報告。それに対して参加者から自由に質問やコメントがされる。

* Plant InspectionはNRCが四半期ごとに1週間(月曜から金曜)実施される。検査側は管轄するRegionからと発電所の常駐検査官が実施する。

こうしたNRCと事業者会合の中で、各国からのオブザーバー参加者の中から、トピックス的に今回のALARAシンポジウム会議で報告した中から報告した。

日本からは冒頭に私が発電所の開発状況と2003年の被ばく結果を紹介。それを引き継いで東電の菅井GMが詳細の状況とこれまでに取り組んできた内容を報告した。

これに対して、NRC Regionの方から過去に福島発電所を訪問したことがあり、そのときの印象が、線量率も低く、管理もすばらしかったとのコメントがなされた。汚染管理区域でのハンドフリーページング等の事例も出されて多くの良好事例が得られたとのコメントがなされた。(今回はその逆になるのか、相互に学ぶべき点を得られるとよい)また現在実態調査を進めており、米国の発電所を訪問したいとの依頼をした。

以上